わたしたちの人権 107

だれもが人間として生きていくうえで侵すことのできない当然の権利これが『人権』です

子どもたちの人権作文

12月の人権旬間にあわせて、子どもたちが書いた人権作文を1・2月号でご紹介します。今月は3人の作品を紹介します。

まつりに入れないのはゆるさん

そよう小学校　2年　小野ますみ

ぼくたちは、「こんぴらさんのすもう」をべんきょうしました。

ぼくは、町の人たちがすもうのじゅんびで、よこ村の方にまくをはるのは、ゆるせないとおもいました。よこ村からすもうは見えないのにわざとまくをはっていたから、ぼくはよこ村の人たちが、

「おれたちは、まつりに行っちゃいけないのか。すもうに出ちゃいけないのか。」

と思うかもしれないと、思いました。

ぼくは、みんなでサッカーをしていて、ぼくがボールをとりに行ってるあいだに、みんながいなくなっていたのを思いだしました。おいていかれていやでした。何回もいじわるをされたから、ぼくは、

「ぜったいあそばん。」

と言いました。本当はあそびたかったけど、あそびたくなくなったから言いました。よこ村の人たちとおなじ気もちでした。よこ村の人と、いやという気もちがおなじでした。

すもうがはじまって、よこ村の人たちもおまつりにいてもいいのに、町の人がとよきちくんをふくろだたきにしました。ぼくは、いけないと思いました。よこ村の人をおまつりに入れないのがいけないとおもいました。おけやのむすこが足のほねをおったのを、よこ村のせいにしたのがおかしいと思いました。よこ村の人は、すもうに出ていないから、ほねをおるのはできません。

とよきちくんは、ふくろだたきにされても、

「こんなむごいことはあるか。オレが大人になったら、こんなまちがったことは、ゆるさんぞ。」

と、言いました。ぼくは、すごいと思いました。とよきちくんが、まくをやぶったのを聞いて、とよきちくんは、

「こんなまくはいらないぞ。」

と思ったと思います。ゆう気を出したと思います。つよくなったと思います。

ぼくは、今はあんまりつよくないけどとよきちくんみたいにつよい子どもになります。

いのちをいただく

そよう南小学校　2年　かい　レミ

わたしたちは、見学りょ行で、千こうファームに行きました。村上さんのお話を聞きながら、どうやって肉がつくられているのかを見ました。二かいの大きなまどから、工場のようすを見ました。天じょうから馬がつり下げてありました。大きかったです。わたしは、馬をきかいにのせてしごとをすると思っていたけど、馬の後ろ足をつり下げてあったからびっくりしました。

大きなきかいで、馬のかわをピューとむきました。つるんとむけてはやかったです。ちがでていました。そして、手と足も切りました。チェンソーみたいなきかいで、馬の体をたてに切りました。はたらいている人は、ヘルメットをかぶっていました。白いエプロンみたいなふくをきていました。上から馬がおちてきたらあぶないからヘルメットをかぶっていると思いました。

八十三度のおゆのシャワーで、馬の体やないぞうをあらっていました。下からちょうがながれていきました。白くてでこぼこしていました。じんぞうやしんぞうもながれてきました。これもぜんぶ食べると、村上さんが教えてくれました。肉を小さく切っているところも見ました。はたらいている人はみんな、白や青の帽子をかぶって、エプロンや手ぶくろやマスクをしていました。わたしは、ばいきんがお肉につかないように気をつけていると思いました。村上さんは、馬をころすとは言わないで、馬のいのちをいただくと言いました。馬はピストルみたいなものでたおします。わたしはこわいと思ったけど、そうしないと肉が食べられません。だから、かわも、しっぽも、ほねも、一つもすてないでぜんぶつかうのだと思いました。

わたしのじいちゃんの家は、黒牛を三十五とうぐらいかっています。わたしもよく、牛のうんちのけのしごとをします。じいちゃんの牛ごやを、みんなで見にいきました。じいちゃんが、牛の名前やしごとの話を、みんなにしました。じいちゃんが、

「牛を大切にそだてています。だからのこさないで大切に食べてください。」

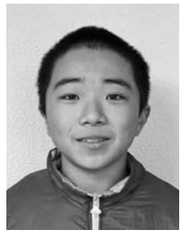
と言いました。千こうファームの村上さんの話をきいたとき、じいちゃんが言ったことを思い出しました。おなじだと思いました。

わたしは、うちにも牛がいるから、どうやってお肉を作るのかを見にいくのが、とても楽しみでした。うちの牛も、こうやってお肉になるんだなぁと思いました。

さいごに、みんなで馬さしを食べました。あまくて、やわらかくて、肉のあぶらが少し出ておいしかったです。うちの牛のお肉も、やき肉にして食べると、ふんわりやわらかくておいしいです。

今思うこと

矢部小学校　6年　柴田　智洋



平和って、何なのか、ぼくは、あらためて知りました。修学旅行の時、ぼくたちは、城だいさんと、塚本さんに、

「平和って、何だと思いますか?。」

と、聞かれました。ぼくは、争いがない事だと、最初思いました。しかし、それだけではありませんでした。今、このように、自分たちが生きていられることが平和だったことを知りました。今、あたりまえに勉強ができる事、あたりまえに、給食が食べれる事、あたりまえに、家族や友達といっしょにいれる事、すべてが平和だと、思いました。今、このように、作文を書けてる事も平和です。だから、ずっと平和な世の中にしていきたいと、強く思いました。

しかし、最近けん法のことをよくニュースで耳にするようになりました。また、修学旅行でも、けん法の話を聞きました。ぼくは、そのことを耳にするたびに、あらためて戦争や平和について深く考えるようになりました。ぼくは、戦争は絶対にゆるしません。戦争は最大の差別だと思います。

ぼくのばあちゃんは、戦争に強く反対しています。それは、ばあちゃんも戦争を体験したからだそうです。ばあちゃんのお父さん、ぼくのひいじいちゃんは、戦争に行ったそうです。ばあちゃんはまだ小さかったけど、その時のことは、ずっと覚えているそうです。戦争の時は食料もなくて、ぜいたくはできなかったそうです。ひいじいちゃんが戦争から帰ってきた時のことを聞いて、ぼくはよかったなあと思いました。

ぼくのじいちゃんは、お好み焼きがきらいです。それは戦争中ずっと野菜などをお好み焼きのようにして食べさせられてきたから、その時の記憶がよみがえってくるから、いやだそうです。ぼくは、戦争がおわっても、今でもこんなふうに戦争が残っているんだと強く思いました。戦争によって親を亡くした子どもがたくさんいたことも、ばあちゃんから教えてもらいました。ぼくは、親、家族がいなくなるということは、ぜったいにいやだと思いました。戦争は多くのものの命をうばい人々の心にも傷を残します。ぼくは、ばあちゃんの話を聞いて、ぜったいにぜったいに、戦争は許さないと思いました。

ぼくたちは、人権学習で「原子雲の下で」を勉強しました。その話の中で、

「わたしのとなりにすわってくれる子が三日とつづかない。」「よくても悪くても差別される。」という文章がありました。ぼくは、おかしいと思います。なんで何もしていないのに、差別されるのか、差別する人がいるのが、腹がたちます。そして多くのものの命をうばった原爆のひどさの中でさえ、差別がやきつくせなかったことはとてもくやしいです。だれとすわってもいいし、仕事も関係ないです。どこに住んでいても、どこの国でも関係ないです。

ぼくは、前「はげ」と言われたことがありました。冗談のようにも聞こえたけど、やっぱりいい気持ちはしませんでした。最後は「別にいいか。」と思って、言い返しませんでした。それがよかったのかと今思います。「戦争は最大の差別」と思った自分が、言い返せない、それは、差別をゆるしていることになります。差別はいけない、許せないと思っているけど、まだ自分には何かがたりないと思っています。そんな自分を変えられるようにこれからも、もっと深く考えていきたいです。そして、おかしいことは、おかしいと、言えるようになりたいです。